



心を一つに

復旧・復興へ

南阿蘇村長

ながの
長野
としや
敏也

村民の皆さま明けましておめでとうございませう。穏やかな私たちの日々の生活を奪った熊本地震が発生した平成28年がようやく明けたと、このような実感であ

ります。

皆さまの中には、大切な家族、親戚、友人をなくされた方もおられ、さみしい正月を迎えられた方もいらっしゃると思います。新年を迎えても、まだまだ心が癒されない日々をお過ごしのことと存じます。さらには被災された多くの方々、村内外の仮設住宅などで寒い冬を迎え、厳しい環境の中で新年を迎えられました。心痛察するに胸を締め付けられる思いであります。改めて心からお見舞いを申し上げます。

昨年4月16日、村を襲った大地震は、皆さまご存知のとおり、多くの犠牲者を出し、大動脈の国道57号線や俵山トンネル、阿蘇大橋、阿蘇長陽大橋、JR豊肥本線、南阿蘇鉄道、公営温泉、村道、河川、家屋、旅館・ペンションなどの観光施設、農地に至るまでさまざまな被害をもたらしました。震災直後には、停電、断水、

電話の不通などが発生し、避難所や車中などでの避難、水や食料に困窮するなど、すべての村民が被災者となり非常に厳しい避難生活を余儀なくされました。さらに6月の豪雨災害、阿蘇中岳第一火口も爆発的噴火を観測するなど、去年は災害に振り回された一年でありました。

しかし、震災以降日々の経過と共に少しずつではありますが、ライフラインの復旧も進んでおります。国県村道も徐々に開通し、俵山トンネルを含む県道熊本高森線が昨年12月24日に仮復旧しました。また国道、県道では国道57号線など未開通区間もありますが、一日も早い復旧を今後も国県に働きかけます。また村道についても、早期復旧に努めて参ります。水道については、震災直後から懸命に復旧を進めました。立野地域など未復旧地域がありますが、今後とも全力で復旧工事を進めてまいります。

震災直後から村では、国、県と連携しながら、被災者の皆さまに寄り添った対応を進めてまいりました。避難所の運営、旅館ホテルなど宿泊施設における2次避難所への誘導、村内外8カ所の仮設住宅やみなし仮設住宅への入居、地域支えあいセンターによる巡回、国の制度である生活再建支援金、村単独の見舞金や農地補助、立野地域の長期避難世帯認定、仮設店舗の建設、さらには各集落の公民館、神社などコミュニティ施設修復への補助、家屋一部損壊の修理費への義援金配分も行います。宅地被害に対しては国県の方向性を見極め、村としての助成を検討してまいります。

これからの新しい年は、これまでの取り組みに加えて、復旧から復興への歩みを力強く踏み出す年としなければなりません。村では、現在策定中の「復興まちづくり計画」をもとに、現在建設中の新

庁舎を中心とした「災害に強いまちづくり」と震災前より住みよい村にする「創造的復興」を目指します。まずは村民の皆さまの日常を取り戻すため、一日も早い生活の再建や農業と観光産業の再建に向けて、これらの動きを加速させていかなければなりません。何卒村民の皆さまのご理解、ご協力を心からお願い申し上げます。

ここまで震災のことを中心に新年のあいさつ文を書きました。今回の震災では、大きな被害を受けた方、被害が軽かった方などさまざまであると思います。震災からの復旧以外にも実施すべき事業はあります。しかし、今は同じ村民として支えあい心をつなぐにして、いばらの道を共に歩んでいくことが大切であると思います。

人は大きくジャンプする時、一度大きくしゃがみこみます。今回の大震災も大

きくしゃがみこんだ状態だと考えています。

「ピンチをチャンスに」大震災というこの大きなピンチのあと、このことをチャンスと捉え大きく羽ばたけるような取り組みである「創造的復興」を進めなければなりません。

この新たな年が皆さま方と南阿蘇村にとりまして、希望に満ちた明るい未来への元年となりますよう心から祈念申し上げます。私に残された2期目の任期はあともわずかありますが、全力を尽くすとともに、この震災を風化させず、次の世代へしっかりと繋げていきたいと考えております。

終わりに、新しい年が村民皆さまにとりまして、本当に、本当に幸せな一年になりますようお願い申し上げます。新年のごあいさついたします。